

読響
Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

年末に響く“歓喜の歌”
心震わす壮大なクライマックス

第九

ベートーヴェン：
交響曲 第9番 二短調
作品125
「合唱付き」

BEETHOVEN: Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"



読売日本交響楽団 2019年度〈第九〉演奏会

●SHINRYO Presents〈第九〉特別演奏会

12月17日(火)19時開演 東京芸術劇場(池袋)
S¥9,700 A¥7,600 B¥6,100 C¥4,600

●FUJITSU Presents〈第九〉特別演奏会

12月18日(水)19時開演 サントリーホール(赤坂)
S¥9,700 A¥7,600 B¥6,100 C¥4,600

●第627回名曲シリーズ

12月20日(金)19時開演 サントリーホール(赤坂)
S¥9,700 A¥7,600 B¥6,100 **CSolp,OUJ**

●《第223回土曜マチネーシリーズ》

12月21日(土)14時開演 東京芸術劇場(池袋)
S¥9,700 A¥7,600 B¥6,100 **CSolp,OUJ**

●《第223回日曜マチネーシリーズ》

12月22日(日)14時開演 東京芸術劇場(池袋)
S¥9,700 A¥7,600 B¥6,100 **CSolp,OUJ**

※17、18日公演のみ、前半に福本茉莉によるオルガン演奏(約15分)を行います。

※料金は消費税10%を含んでいます。

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター:0570-00-4390

(10:00~18:00・年中無休)

読響チケットWEB:<http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド:チケットぴあ他

読響チケットセンターには一時託児施設があります(要事前予約)。学生券:学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。



Soprano = SYLVIA SCHWARTZ

ソプラノ
シルヴィア・
シュヴァルツ



Mezzo-soprano = KAORI IKEDA

メゾ・ソプラノ
池田香織



Tenor = YUSUKE KOBAYASHI

テノール
小堀勇介



Baritone = THOMAS OLIEMANS

バリトン
トーマス・
オリマンズ

Conductor = MOR BOLTON

指揮
アイヴァー・
ボルトン

合唱 新国立劇場合唱団(合唱指揮=三澤洋史)

Chorus = New National Theatre Chorus (Chorusmaster = HIROFUMI MISAWA)

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)(21、22日)

特別協賛:新菱冷熱工業株式会社(17日)、富士通株式会社(18日)

協賛:NTTコミュニケーションズ株式会社(20、21日)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会(20、21、22日)

事業提携:東京芸術劇場(17日)

<https://yomikyo.or.jp/>

クラシック音楽の最高傑作時代を超え、心に響きわたる《歓喜の歌》

クラシック音楽の歴史に燦然と輝く不朽の名作、ベートーヴェンの交響曲第9番「合唱付き」。最終楽章で高らかに響く“歓喜の歌”は、年の瀬の日本を彩る風物詩としても親しまれています。〈第九〉には、国境を越え、世代を超えて、多くの人に感動をもたらす特別な魅力があります。

今年の読響〈第九〉公演では、欧州で活躍する名匠アイヴァー・ボルトンが指揮します。スペインの名門マドリード王立劇場音楽監督を務め、バイエルン国立歌劇場やザルツブルク音楽祭など国際的に活躍しているマエストロです。

ウィーン国立歌劇場など世界各地で歌うソプラノのシルヴィア・シュヴァルツをはじめ国際的に活躍する独唱陣、日本が誇るプロ合唱団の新国立劇場合唱団とともに、読響がお届けする至福のひとつときをご堪能ください。

新国立劇場合唱団 (合唱指揮=三澤洋史)

New National Theatre Chorus (Chorusmaster = HIROFUMI MISAWA)
至高のハーモニーで人類愛を歌う、読響〈第九〉のベスト・パートナー。新国立劇場で行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を展開し、高い評価を得ている。2007年以来、読響〈第九〉公演に出演を続けている。

読響日本交響楽団

Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

1962年、日本のオーケストラ音楽の振興と普及のために読響新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立。今年4月からセバスティアン・ヴァイグレが常任指揮者を務めている。サントリーホールや東京芸術劇場などで多数の公演を開催するほか、小中学校や病院で演奏するなど、クラシック音楽ファンのすそ野拡大にも地道な努力を続けている。

指揮=アイヴァー・ボルトン

Conductor = IVOR BOLTON

古典派の音楽で高く評価され、オペラとシンフォニーの双方で活躍する名匠。ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、バイエルン国立歌劇場、パリ・オペラ座など世界の一流歌劇場に招かれ、ザルツブルク音楽祭、フィレンツェ五月音楽祭、BBCプロムスなどに出演。ロイヤル・コンサートヘボウ管、ウィーン響、チューリヒ・トーンハレ管、BBC響、フライブルク・パロック管など欧州の主要楽団に客演している。現在はバーゼル響首席指揮者、マドリード王立劇場音楽監督、ドレスデン祝祭管首席指揮者、ザルツブルク・モーツァルテウム管絃冠指揮者を務めている。CDやDVDも数多く、ヘンデルやヤナーチェクのオペラ、ブルックナーの交響曲などをリリースし、好評を博している。今回が読響初登場。

©Nancy Horowitz

ソプラノ=シルヴィア・シュヴァルツ

Soprano = SYLVIA SCHWARTZ

世界各地で聴衆を魅了する歌姫。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エディンバラ音楽祭などで活躍。アバド、アーノンクール、メータ、バレンボイムの指揮で欧州の一流歌劇場や楽団と共演している。今年9月にはアン・デア・ウィーン劇場などでアントニーニ指揮の〈ドン・ジョヴァンニ〉ドン・チャ・アンナを歌う。



©Gisela Kalkbrenner

メゾ・ソプラノ=池田香織

Mezzo-Soprano = KAORI IKEDA

精緻な音楽性を持ち、躍進を続けるメゾ。東京二期会〈トリスτανとイゾルデ〉イゾルデ、新国立劇場〈神々の黄昏〉第二のノルンなどに出演。今年6月には東京二期会のヴァイグレ指揮〈サロメ〉でヘロディアスを歌った。読響とはG.アルブレヒト指揮のヤナーチェク〈運命〉などでも共演。マーラーの交響曲〈2番、3番〉でも高い評価を得ている。二期会会員。



©井村豊大

テノール=小堀勇介

Tenor = YUSUKE KOBORI

瑞々しい歌声で注目を集める新星。イタリア在学中にペーザロのアカデミア・ロッジニアーナに参加、A.ゼツダのもとで研鑽を積む。チロル祝祭歌劇場〈アルジェのイタリヤ女〉リンドーロで欧州デビュー。メドック音楽祭、パチカン音楽祭などに出演。今年6月には藤原歌劇団〈愛の妙薬〉ネモリーノで好評を博し、9月には〈ランスへの旅〉リーベンスコフ伯爵を歌う。



バリトン=トーマス・オリーマンス

Baritone = THOMAS OLIEMANS

フィッシャー=ディスカウの伝統を受け継ぐバリトン。英国ロイヤル・オペラ、ザルツブルク音楽祭、エクサン=プロヴァンス音楽祭などに出演。これまでにナガム、デユトワ、サロネン、ボルトンらの指揮で、ロイヤル・コンサートヘボウ管、BBC響などと共演している。パロックから現代音楽作品まで幅広いレパートリーを誇り、国際的に活躍している。



©Marco Borggreve



今日と未来の間に。

人は一生で、どれだけ多くのコミュニケーションを重ねながら生きていくのだろう。

ことばを交わし、想いをつなげ、社会と共鳴しながら、人間は、新しい進化を生み出し続けてきました。

そんなコミュニケーションの無限の可能性に挑み、想像を超える未来を切りひらくこと。

それが私たちNTTコミュニケーションズの使命です。

あらゆる垣根を越え、想いや情報をめぐらせ、未知なる豊かさを、社会や世界に届けてゆく。

私たちは、今日と未来の懸け橋となり、

まだ見ぬコミュニケーションを創造し続けます。